

Next Generation

～保護者からの応援メッセージ～

～遠野高校への思いを次の世代へ～

令和3年度 福島県立遠野高等学校 文化祭 PTA・同窓会合同企画

令和3年10月29日～30日 校舎内生徒ホールにて

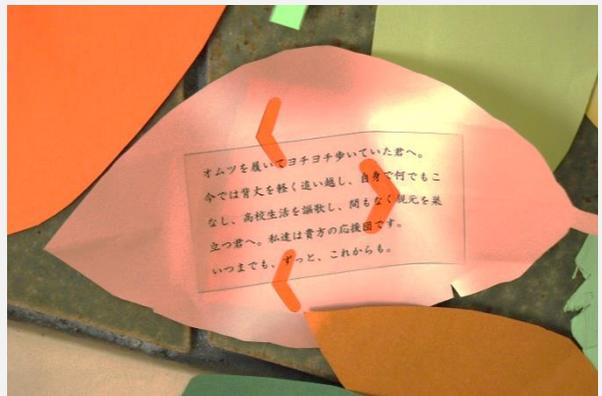
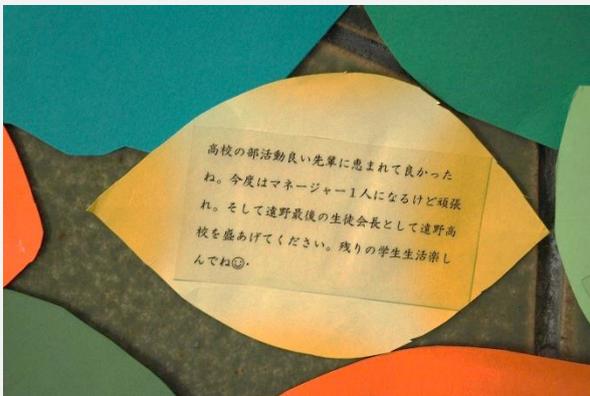
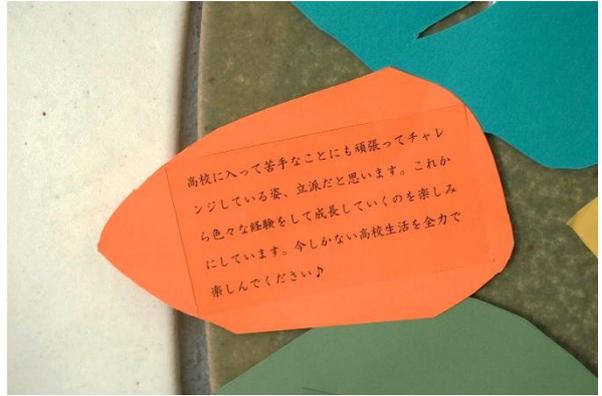
(プライバシー保護の為、投稿された皆さまのお名前は伏せさせていただきます。)

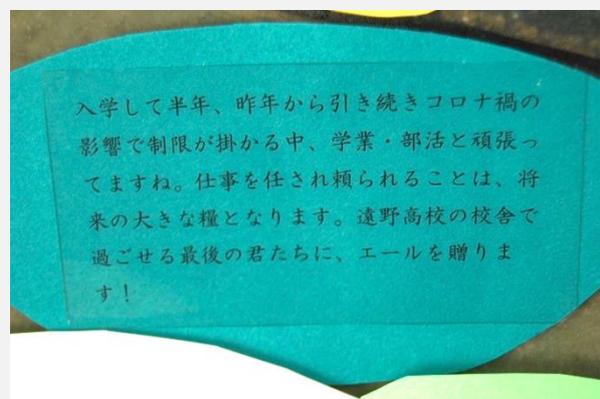
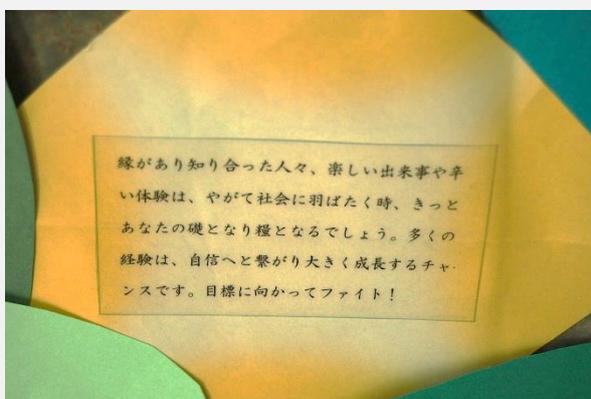
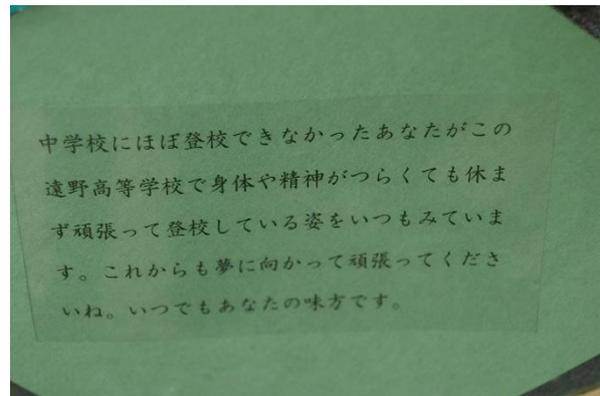
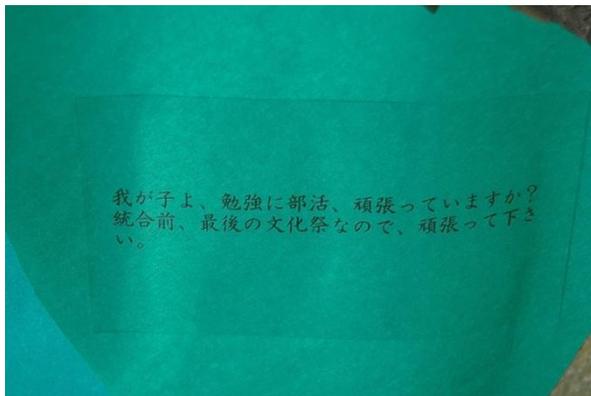
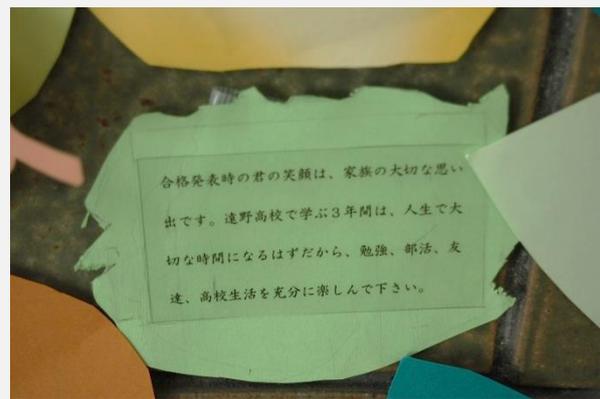
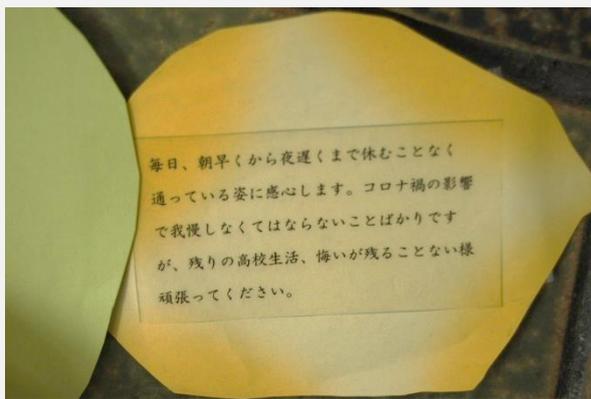
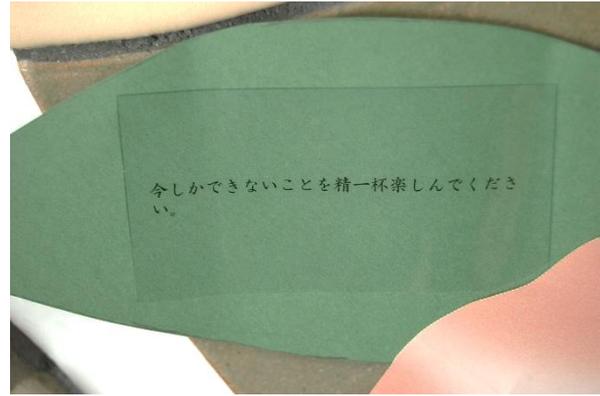
学校生活を見守ってくれた



生徒ホールが...







素晴らしい環境で、多くを学んできた皆様の
遠野魂に期待しております。皆様のご
ごで過ごした時間が、きっと皆様の糧にな
ころ、将来を照らす明かりになることでは
輝かしい未来を目指して、頑張ってください。

高校へ入学して、6カ月がすぎます。高校生
活にも慣れて、勉強や部活に頑張っている
姿をみると、安心します。初めての高校の文
化祭をクラスの皆で頑張ってください。

合格発表時の君の笑顔は、家族の大切な思い
出で、新たなスタートでした。遠野高校で
学ぶ3年間は、人生で大切な時間となるはず
です。高校生活を十分に楽しんで下さい。

今という時間は一生に一度きりです。この一
時を楽しんでください。

一度きりの高校生活…
あっという間に終わります。
いっぱい学んでいっぱい遊んでいっぱい笑っ
て、思いっきり楽しんでください！！

高校2年生になり、学校生活に慣れてきまし
たね。勉強や部活に励み、成長していく姿を
見て、誇らしく思います。
長い間コロナ対策を強いられましたが、本日
はあかさか祭！思いっきり楽しんで明日の糧
にして下さい！！

嫌な事や辛い事もたくさんあるけれど、それ
を乗り越えた時に嬉しい事・楽しい事がある
ことを知っているから頑張っているよね。も
う安心していても、お友達と高校生活を楽
しく過ごしてもらえたら最高です！

こうすれば良かったなんて後悔は沢山ある
が、それ以上に楽しい思い出が溢れてくる。
友達と笑い合い、時には苦悩し、切磋琢磨し
た青春の場所、学枯盛衰は世の常であるが故
に寂しい物である。

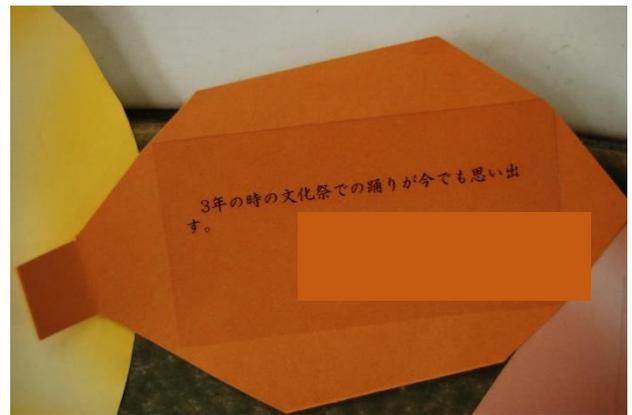
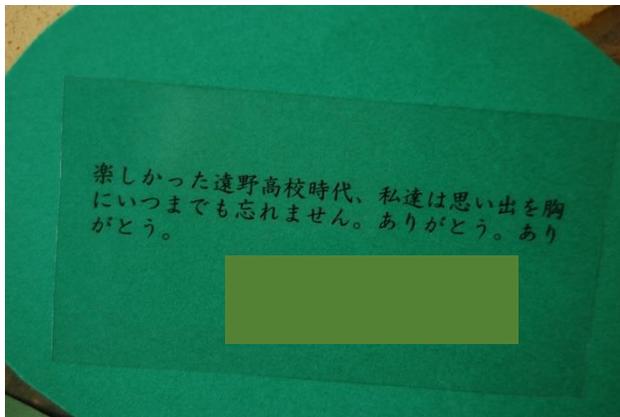
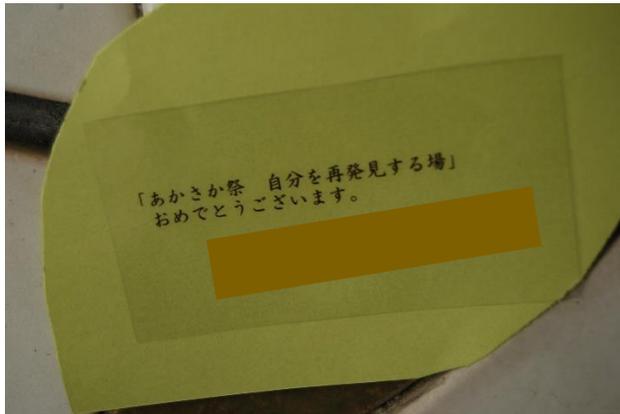
高校に入學してから、早くも6ヶ月が経ちましたね。学校生活には慣れましたか。勉強に部活に両立大変かもしれませんが最後まで挫けず頑張って下さいね。このご時世でなにかと制限されていますが、良い思い出作ってください。あなたの活躍願っています。

疲労や筋肉痛に耐え部活動頑張っていますね。辛い事を継続するのは難しいですが、その努力は自分の強さとなります。どんな時でもポジティブに倫理を常に心掛けながら成長して下さい。いつも見守っています。

高校生活を、将来の夢に向けて、充実したものにして欲しいと思います。また、高校の友達は、長い付き合いになると思うので、大切にしていって欲しいです。いろいろと苦学なこともあるけれど、頑張って楽しく生活していこう。

中学校にはほぼ登校できなかったあなたがこの遠野高等学校で身体や精神がたくたくも休まず頑張って登校している姿をいつもみています。これからも夢に向かって頑張って下さいね。いつでもあなたの味方です。





私の遠野高校での思い出は、マラソン大会
のお手伝い。OGさんも助っ人に入りなが
ら、みなさんと和気あいあいとお手伝いをさ
せて頂きました。

子供が卒業してもサポーターとして子供た
ちを支え、時には親御さんの相談にも乗って
くれたりとまるで大家族のように温かい人
達。

そうした繋がりの深い学校は他にはなく、
そしてそんな親御さん達に見守られながらこ
こで巣立っていく生徒さん達もみんな優しさ
を持って次のステップに進んで行くことと思
います。

親も子も伸び伸びと成長する場所。
それが遠野高校です。

次女が遠野高生となり卒業してから10年近
く過ぎました。現役の時から保護者や役員と
して遠野高に関わってきました。沢山の思い
出と共に感慨深いものがあります。現役の遠
野高生には前途に希望と幸福あれとエールを
送ります。

コロナ禍で数々の制限の中、創意工夫を凝
らした文化祭、まず生徒の皆さんが楽しん
で、そして私たちを楽しませて下さい。

最初で最後のあかさか祭、コロナの中で色々
と制限の中で子供達が協力して進めていると
思いますが悔いのないように楽しめることを
願っています。ファイト
遠野高校を胸に刻みこんでいって下さい

最後の最後のあかさか祭開催に感謝致します。
これも主役である遠野高校の生徒たち、皆さん
の熱い、熱い思いが受け入れられました。
まさに君たち世代は歴史を後世に伝える伝承者
である！

部活動後援会顧問の佐川和子です。

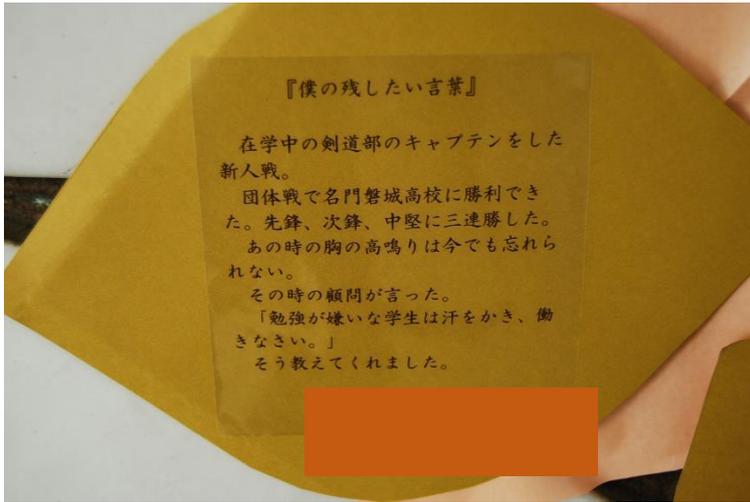
思い起こせば、遠野高創立50周年から関わ
ることになります。

大勢の方々のご支援のお陰で、PTA会長、
部活動後援会会長、そして顧問と成し遂げ
ることが出来ました。

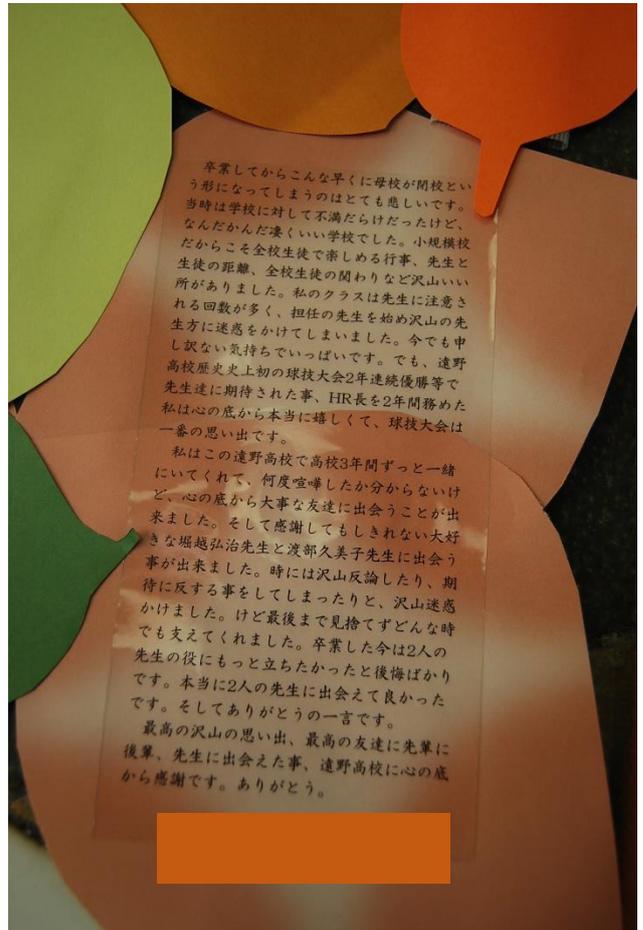
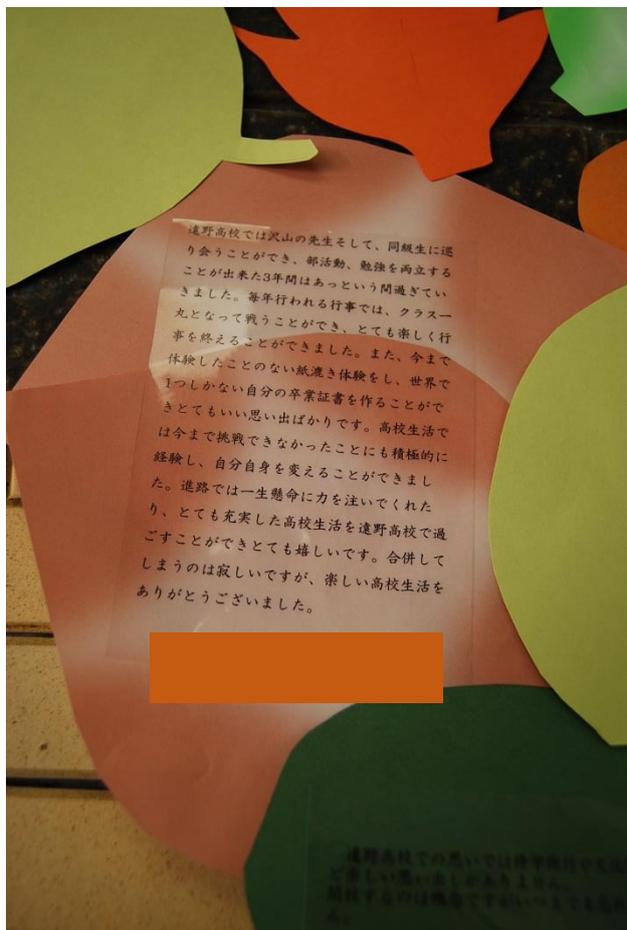
時には、私の我がままを聞いてさり、式典に
は花を飾らせていただいたり、マラソン大会
には生徒達にプレゼントを用意する楽しみも
できました。

たくさん感動に感謝申し上げます。

ありがとうございました。







自分の思い出として印象深いのはやはり部活動です！
遠野高校に入ったきっかけも地元の先輩方の話など聞いて興味が湧き、又野球がしたくて入りました。
野球部に入って早々に、新しい監督(坂本先生)に出会うことができました。坂本先生は、誰よりも熱い先生でした！自分はあまり野球がうまい方ではありません。ただ坂本先生だけは、自分の長所を見つけてそれを伸ばしてくれました！
二年生の時には、コーチとして中畑先生や夏目先生に、会うことができました。中畑先生や夏目先生にも、いろいろとご指導頂きました。
遠野高校の野球部は公式戦なども、あまり勝つことはありませんでしたが春の大会で、十数年ぶりに勝った時は、嬉しかったです。
又三年間という長くもあり短い高校生活でしたが家族や、友達、先生、地域のたくさんの方の、支えのおかげで高校生活を、送ることが出来ました！
母校が合併すると聞いたときは驚きました。
でもこれも又新たな風の、流れなのかなと思います。
遠野高校の思い出は、同級生で集まった時は必ずみんなで、話して思い出しています。

色々辛いこと、しんどい事あったけど遠野高校でよかったなって今では思う。当時の先生、仲良くしてくれた友達ありがとうございました！

豚汁作り楽しかったです！

いっぱい楽しんでください！

いい思い出にしてください！



思いでの遠野高校

教員は、勤務校となっばかりでなく、県立高校改革の大きな波を受けて統合が決まり、遠野高校関係団体、いわき市役所遠野支所、地域住民の皆様の協力の元、統合に向けて新しい学校教育のあり方について考え行動したことは忘れられません。今日、改めて「あかさの袋」の企画で原稿募集の依頼があったことから、当時の記憶をたどり、思い出を返ってみました。その中から特に印象に残っていることをいくつか紹介しました。

1 校長先生と生徒の成長

校長先生に話しかける時も、「・・・先生」と声をかけます。遠野高校では、校長先生は全て先生なので、ある先生に「生徒たちの変化を感じますか?」と話をすると、勿論です。早稲したての頃はおとなしく明るさが感じられなかったけれど、こんなに高き塔と湧きあがっているのですよ」と答えがありました。教員も個性があり、厳格な先生、優しい先生、復しい先生、共感できる先生・・・遠野高校にはいつの時代も様々な個性を持った先生方がいたと思います。そして、生徒のそれぞれの個性をうまく受け止める先生方が協働し、各々で、生徒からの信頼を醸成し、指導の効果を上げたのだらうと思います。校長先生の指導をさらに生徒の変化に結び付けるために、何ができると考えているのか。そして、私が生徒に話をする機会に結び付けて、生徒たちが自分の成長を実感し、自分らしく生きていくような内容を選ぶことができました。卒業式に壇上から生徒たちを祝福すると、入学式と比べて生徒たち一人ひとりの成長を実感し嬉しくなり、校長先生の指導に感謝したものでした。

卒業式で、生徒会から表彰状とモザイク画の記念品をいただきました。表彰状の文面に校長先生が先生方をおして生徒にしっかり伝わっていることが感じられました。また、校長先生と生徒の昔に感謝しました。改めて、ありがとうございます。



生徒会から送られた記念品のモザイク画と表彰状

2 県立学校改革と70周年記念事業そして地域との繋がりが

着任した直後に学校要覧を見て、校章のデザインが上遠野、入遠野、田人の3地区を表しており、3地区の強い要望によって創設されたことを知りました。さらに、遠野高等学校沿革を見ると、遠野高校は3地区から土地、材木、労働力、費用の提供を受けて現在の基礎をつくってきたことを知りました。その後10年ごとの周年行事ではトレーニング室や門柱などが整備されました。地域の大きな期待を担って遠野高校が創られ、育てられたのです。



遠野高校創生期の校地の造成工事と開校記念パレード

さて、着任して8か月が過ぎたころ、大震災と原子力発電事故のため中断していた県立高等学校改革が再度動き出しました。遠野高校への第1報は、高校改革の方針（小規模校の統合）といわき地区で開催が予定されている公聴会への学校評議員と生徒代表の参加の依頼でした。

急遽、同窓会、PTA、部活動後援会、学校評議員、遠野高校を語る会の役員等に集してもらい、校長から状況について説明しました。すると、すぐに公聴会の意見陳述者が決まり、併せて、多くの出席者が公聴会を傍聴すること、および学校の存続を目指して遠野支所と区長会にも状況を説明して地域の問題として対応することが決まりました。理由は、遠野高校が地域のシンボルであることやこれまでの卒業生に対する指導実績と地域行事への参加、施設訪問ボランティアなどの地域連携の成果でした。区長会でも存続のために取り組むことになり、支所長は区長会長と調整しながらその取りまとめを引き受けてくださいました。そして、存続のための署名と陳情の活動が始まりました。最終的には10,503名の署名を集め、市議会議員と県議会議員の支援も受けて、区長会長が支所長と共に県議会議員と県教育長に陳情してくださいました。残念ながら存続には至りませんが、改めて地域との深い関係に思いを馳せることになりました。関係してくださった皆様ありがとうございました。

また、創立70周年記念式典と祝賀会が多くのご来賓と関係者の出席を得て盛大に行われました。一方、それに先立って創立70周年記念事業の準備も進められました。同窓会を中心に学校関係団体が一帯になって記念事業の資金となる募金を考えてくださいました。当時、生徒の主体的な学びにつなげるための「アクティブ・ラーニング」について校



70周年記念事業記念品（ICT機器）の贈呈式

内研修を進めていました。そして、指導のための効果的な機器としてICT機器の導入を検討していました。最終的には電子黒板とタブレット各2台を購入していたいただいて授業に使うことができました。さらに、導入した機器が有効で希望が殺到したため、募金の残額で大規模モニターを購入していただきました。また、電子黒板では卒業式の卒業生入場の前は、文化祭で交代があったGLAYのビデオメッセージを上映することもできました。ここで募金は学校関係者に加えて、地域の皆様からも多く寄せられました。改めて地域の皆様に感謝申し上げます。

3 伝統手書きの卒業証書

昔のように、地域の伝統工芸である遠野和紙の維持が難しい状況にあることを知りましたが、遠野和紙の卒業証書を作っていました。そのためにも遠野高校として、何となく和紙に貢献したいと考えていたところ、商業科と商業研究部が率先して和紙に貢献してくれました。そして、生徒の代表2名が自分で書いた卒業証書を和紙に書き添え、印刷された1枚しかないそれぞれの証書に、氏名等を書き込むと、卒業証書は完成です。



手書きの卒業証書を手にとる卒業生

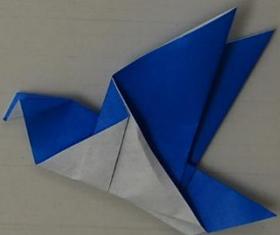
これを切っ掛けに、遠野和紙保存会など地域の皆さんにお世話になりながら和紙の卒業証書を校庭の一角に植えたり、トロアオイの種を花壇に蒔いたりしました。家庭クラブや生徒会の協力も得て、真夏には毎日和紙の水やりも行って、そうすると、生徒全員に自分で書いた卒業証書を手にとらせたいと思うようになりました。支所長に相談したところ、賛同を得て、地域おこし協力隊の全面的な支援を得られるように計らっていただきました。そして、本校初め卒業予定生全員が自分の卒業証書の手書きを行いました。支所長や校長が見守る中、化学実験室で地域おこし協力隊の指導のもと行った手書きは、生徒たちの思い出も残る行事でした。そして、自分が書いた遠野和紙の卒業証書を手にとった卒業生たちにはもう一つ、

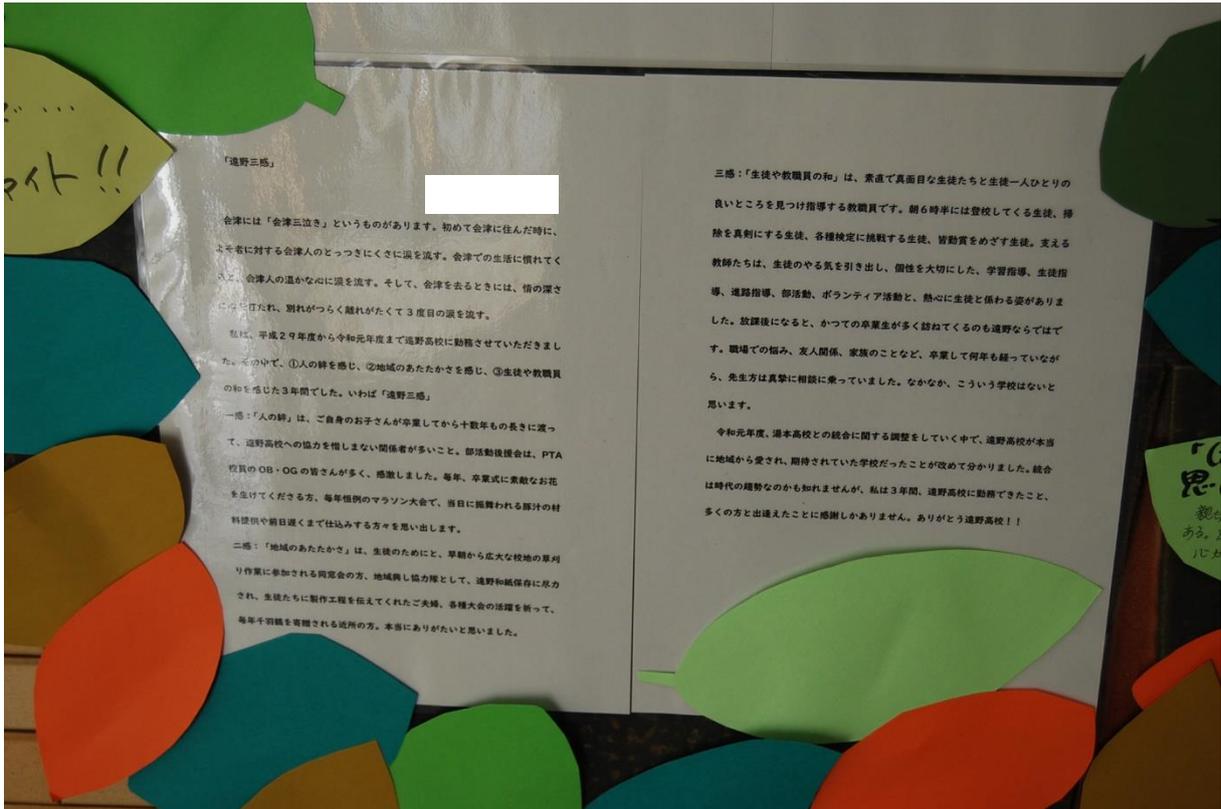


全員が手書きの卒業証書を手にする卒業生

このほかにも、70周年記念事業で楽音「さくらびと」をおしてGLAYとの交流があったこと。もみ祭りや寒風が吹く小雨交じりの中、ボランティアの生徒たちが一生懸命に参加者の接待をしていたこと。商業科の授業と商業研究部が一体になって商品開発した遠野野郎を紹介する「遠野野郎祭り」や「遠野精進屋」。遠野高校のスクリーンを生徒会の皆と一緒に考えたこと。町連合PTA球技大会のために事前練習を繰り返して、ソフトボールやバレーボールに臨んだことなど、思い出がふよふよとたくさんあります。思い出を秋山創ってくださった皆様に感謝申し上げますと共に、遠野高校が卒業生をはじめとする多くの皆様に残り、それぞれの方々のこれからの生活の糧になることを祈念します。また、次の世代に遠野高校の思い出を語り継ぎ、地域のシンボルとして遠野高校があったことを伝えて下さることを願って、筆をおきます。ありがとうございます。

書きおまけ





「遠野三感」

会津には「会津三益」というものがあります。初めて会津に住んだ時に、
と昔者に対する会津人のとっつきに涙を流す。会津での生活に慣れてくると、
会津人の温かな心に涙を流す。そして、会津を去るときには、情の深さ
に泣き打たれ、別れがつらく離れがたく3度目の涙を流す。

私は、平成29年度から令和元年度まで遠野高校に勤務させていただきました。
その中で、①人の絆を感じ、②地域のあたたかさを感じ、③生徒や教職員の
のれを感じた3年間でした。いわば「遠野三感」

一感：「人の絆」は、ご自身のお子さんが卒業してから十数年もの長きに渡って、
遠野高校への協力を惜しまない関係者が多いこと。部活動後援会は、PTA
教員のOB・OGの皆さんが多く、感激しました。毎年、卒業式に素敵なお花
を並べてくださる方、毎年恒例のマラソン大会で、当日に振舞われる部員の材
料提供や前日遅くまで仕込みする方々を思い出します。

二感：「地域のあたたかさ」は、生徒のためにと、早朝から広大な校地の草刈り
作業に参加される同窓会の方、地域興し協力隊として、遠野和紙保存に尽力
され、生徒たちに製作工程を伝えてくれたご夫婦、各種大会の活躍を祈って、
毎年千羽鶴を寄贈される近所の方。本当にありがたいと思いました。

三感：「生徒や教職員の和」は、素直で真面目な生徒たちと生徒一人ひとりの
良いところを見つけ指導する教職員です。朝6時半には登校してくる生徒、排
除を真剣にする生徒、各種検定に挑戦する生徒、習熟度をめざす生徒。支える
教師たちは、生徒のやる気を引き出し、個性を大切に、学習指導、生徒指
導、進路指導、部活動、ボランティア活動と、熱心に生徒と関わらなければ
なりません。放課後になると、かつての卒業生が多く訪ねてくるのも遠野ならでは
です。職場での悩み、友人関係、家族のことなど、卒業して何年も経ってなが
ら、先生方は真摯に相談に乗っていました。なかなか、こういう学校はないと
思います。

令和元年度、湯本高校との統合に関する調整をしていく中で、遠野高校が本
当に地域から愛され、期待されていた学校だったことが改めて分かりました。統合
は時代の趨勢なのかも知れませんが、私は3年間、遠野高校に勤務できたこと、
多くの方と出逢えたことに感謝しかありません。ありがとう遠野高校！！



『遠野高存続への奮闘』 10503名を集
存続のための署名活動。学校関係
者のみならず遠野地区代表、議員の方々と共に
に陳情をしたが県立高等学校改革の方針は変
わらなかった。

創立70周年記念式典と祝賀会は多くのご
来賓と関係者の出席を得て盛大に行われた。
学業研究会の一部から大型モニター10台、機
器、電子黒板とタブレット各2台を購入。そ
れらを用いて文化祭、卒業式などでビデオ
メッセージを上映した。

『生徒手紙の卒業証書』
地域の伝統工芸である遠野和紙漉きを、商
業研究部が率先して勉強したのをきっかけに
保存会のみならず遠野地区代表、議員の方々と共に
核断から手がけ毎年遠野和紙で卒業証書を手
に卒業しました。

遠野高校といえば、一言で表すと、
「学校らしい学校」であったと思いま
す。

生徒一人ひとりが主役であり、それ
を支える教職員、保護者、同窓会をは
じめとする地域の皆様、みんな一生懸
命で協力的でした。

おかげさまで、2年間という短期
間の勤務でしたが、充実した毎日を通
ごすことができました。ありがとうござ
いました。

今年度末をもって、遠野高等学校と
しての歴史は幕を閉じますが、「学校
らしい学校」の精神を、ぜひ統合校で
ある「いわき湯本高等学校」へ継承し
て欲しいと思います。

遠野高等学校の生徒並びに卒業生の
活躍を会津の地から応援しています。



